

兵庫県「大学生と子育てママのマッチングによる子育て支援」事業 大学生の子育て家庭訪問体験活動 学生アンケート 結果

神戸新聞 地域総研

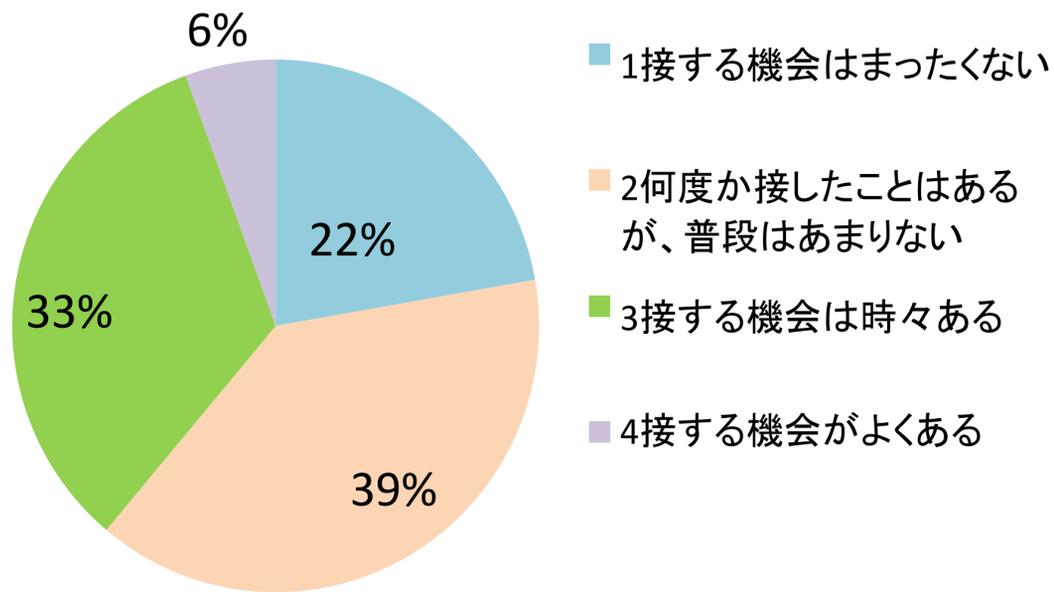
- 1.対象者：子育て家庭訪問体験事業参加大学生 19 名
- 2.回答者：18 名（男性1名、女性18名）
- 3.調査方法：各回答者が子育て家庭訪問体験後にWEBアンケートにて実施
- 4.実施期間：2016 年 10 月 25 日～2017 年 2 月 17 日
- 5.結 果

◆問1：あなたがこの事業に参加しようと思った理由(動機)は何ですか？率直にお聞かせください。

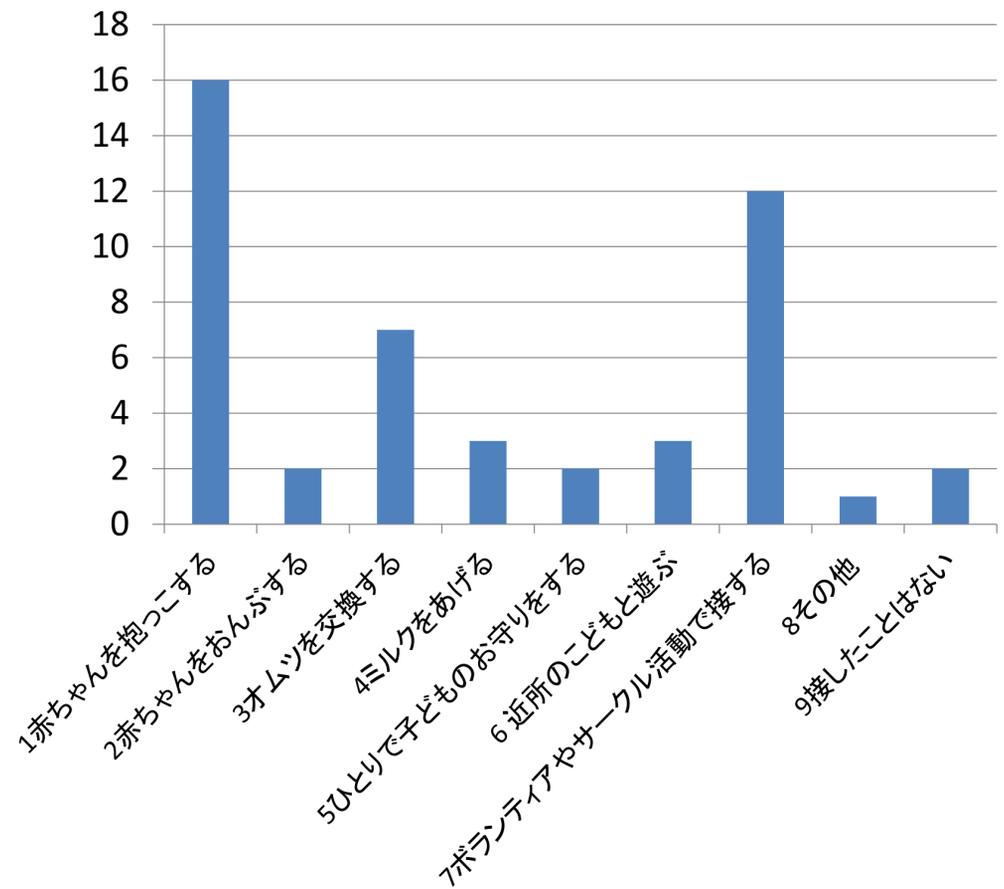
- なかなかそのような機会がなかったから。
- 事業の趣旨に興味を持ったため、子どもと接する良い機会だと思ったため。
- 子どもや子育て、教育に興味があり、その分野についての勉強をしていることと、日程が自分のスケジュールに無理がなかったため。
- 子どもが単純に好きだからということや、将来スクールカウンセラーのような子どもに関わる仕事につきたいということから、子どもと接することが出来るこの事業に参加させて頂きたいと思いました。
- 大学の先生が関わる子育て支援施設でボランティアをしており、この事業のお話を聞いたから。
- 事業がどのような仕組みなのか興味があったから。
- 大学の卒論の関係で、フィールドワーク調査先の代表の方から声をかけて頂きました。また、単に楽しそうだと感じたからです。
- 授業で紹介していただいたため。
- 学校の授業で紹介してもらい、子守体験に興味を持ったため。
- 子どもと触れ合う機会が欲しかったのと、子どもがいる家庭の実際の様子が知りたかったからです。
- 授業の一環であり、また、子どもと触れ合う機会が今まであまりなかったので経験してみたいと思ったため
- 子育て体験を通して、子どもと触れあう中で、子どもがどのようにして普段遊んでいて、どういったことに興味をもつのかということを感じたいと思ったため。また、親御さんのお話をうかがい、普段の生活の一部を体験させていただくことで、より詳しく子どもと保護者の関係、子どもと他者の関係を知ることができるのではないかと考えたため。
- 将来の役に立てたかったから
- ボランティア先で勧められたことと、保育所などで見られるのとはまた違った子どもの姿が見られると思ったことが理由です。
- 子ども家庭の様子を知りたかったから。子どもとふれあいたかったから。
- 臨床心理学、特に児童思春期精神病理に興味があり、児童思春期の精神疾患と幼少期におけるアタッチメントに深い関連性を感じ、そこから発達心理学、中でもアタッチメントに興味を抱きました。そこで先生にこの事業を紹介していただき、自分に肌でアタッチメントに触れ、親子が心身ともに健康に生きていくには何が大切か考えていきたいと思ったからです。
- 大学での発達心理学の授業内で先生から子育て訪問についての紹介を受け興味深く感じていたところ、一緒に訪問させていただいた同期に誘っていただき、参加させていただく運びとなりました。
- 子育て中の家庭へいくことで家庭内の子育て支援のあり方を考えたかったから。
- 小さい子どもを持つ保護者がどんな家庭生活を送っているか知りたかったから。

<あなたの普段の行動や意識についておたずねします>

◆問2:あなたは、普段、3歳以下の子どもと接する機会がどの程度ありますか？

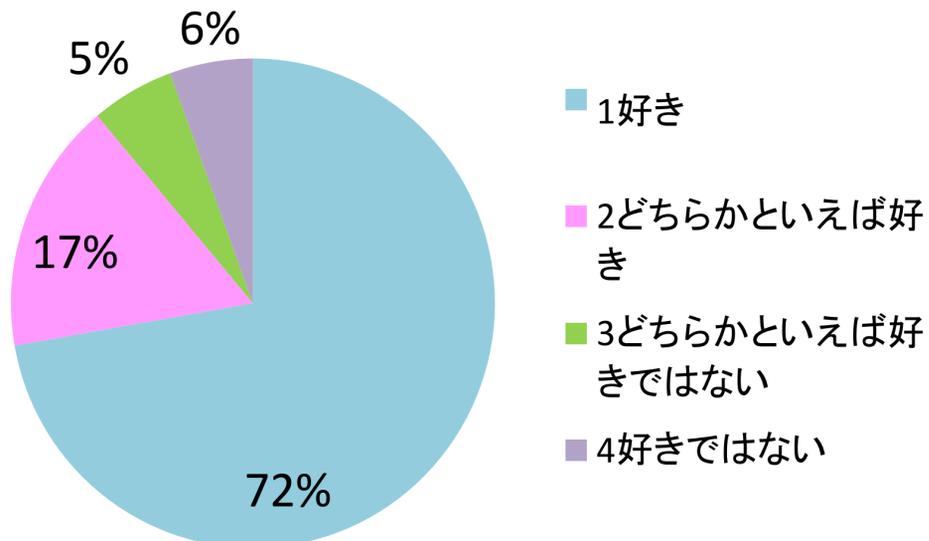


◆問3:どんな接し方を体験したことがありますか？あてはまるもの全てを選んでください。

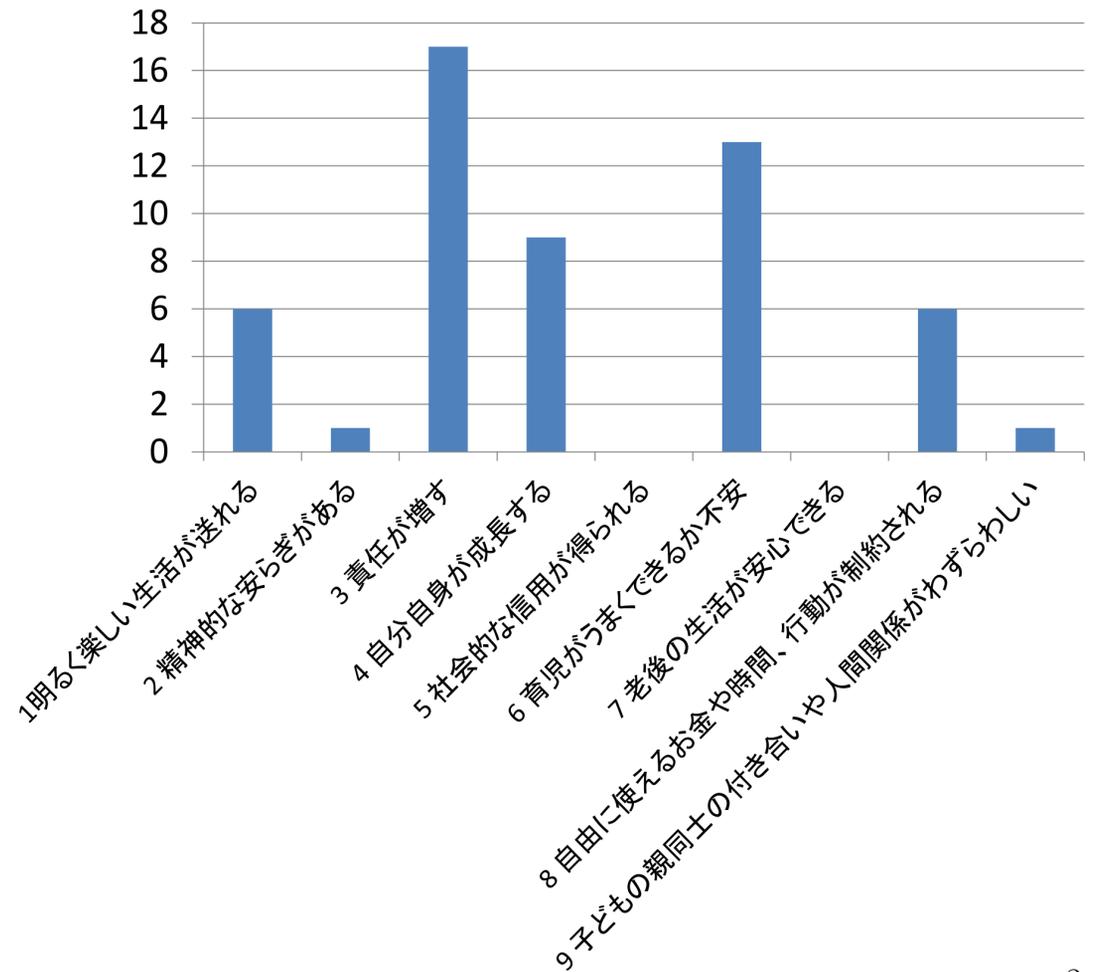


<今回の事業に【参加する以前】の、あなたの意識についておたずねします。>

◆問4:あなたは、一般的に「子ども」が好きなほうでしたか？



◆問5:今回の体験以前に、「子育て」について、あなたはどのようなイメージを持っていましたか？あてはまるものを【3つまで】選んでください。



<家庭訪問をしたときのことについておたずねします。>

◆問6:家庭を訪問したときのことについておたずねします。訪問先では、具体的にどのようなことをしましたか？持参したおもちゃの内容も含め、できるだけ具体的に教えてください。

- 一緒におやつを食べる。買って来た絵本(きんぎょがにげた/おとうさんとあそぼう)を見る。どうぞ、ありがとうの受け渡しの遊びをする。保護者の方に質問をしたり、お話を聞いたりする。
- LEGO ブロック、飛び出す絵本、折り紙、小麦粘土、落書き帳、クレヨンを持参しました。まず、LEGO ブロックで遊び、その後小麦粘土で少し遊んでから、おやつをいただきました。その後、飛び出す絵本をお披露目し、もともと家にあった車のおもちゃやラジコン等で遊び、折り紙を折ったり、絵を描いたりしました。
- 音のなる剣のおもちゃを使って、戦いごっこのような遊びをしている時間が一番長かった。また、車が好きで車のおもちゃも触っていた。今回の事業の際に購入したおもちゃも車のおもちゃだったが、訪問した日にそのおもちゃではあまり遊ばなかった。
- 持参したおもちゃで遊びました。おもちゃは、レゴブロック、絵本、小麦粘土、クレヨン、お絵描き帳、折り紙でした。区切りの良い時に、おやつを食べ、子どもたちの日頃の様子を聞いたり、私達のニックネームを子どもたちに付けてもらいました。そして、おもちゃ遊びを再開し、子育てに関する不安や疑問についてお母さんに訪ねたり、それについて話し合いました。
- ◎もともからお家にあるおもちゃで遊ぶ。主に、戦隊物の武器などを使って戦闘ごっこ。
◎持参したおもちゃについては当日はあまり興味をもっておらずほとんど遊んでいない。(訪問家庭に置かせてもらっており、前日はそのおもちゃで遊んでいたらしい。)
◎一緒にごはんをいただき、おにぎりを作ってあげたりして一緒に食べる。
◎おかあさんに育児についてお話聞く。
- 持参したおもちゃは新幹線とレールのセットで、これやまたご自宅にあった絵本など、一緒に遊ぶことや昼食の見守りをしました。また、その最中、お母さんのお仕事のお話であったり、結婚、出産のお話を聞かせて頂いていました。
- 持参した型に立体のおもちゃをあてはめるおもちゃで一緒に遊びました。まだ子どもが一歳ほどだったので、一人遊びが多く、それをみている時間が多かったです。また、おやつをあげてるのを見学させていただきました。
- 型にはめるおもちゃを購入して、一緒に遊んだ。型にはめるのは難しかったが、はめる積み木が音になるもので、それを振って遊んだりした。絵本はあまり興味を持ってもらえなかった。おもちゃの入っていた箱や包装紙で遊んでいた。おやつを一緒に食べて、抱っこもさせてもらった
- 絵本を読んだり、音のなるおもちゃで一緒に遊んだり、おやつを食べたり、びっくり箱のおもちゃを開けては閉める遊びに夢中になったりしていました。
- 最初の方はいつも遊んでいるおもちゃで遊びました。しまじろうのパペットがお気に入り、それでいないいないばあをするのが1番好きそうでした。また、赤ちゃんが乗れるくらいのサイズの車のおもちゃでも遊びました。クラクションや音楽になるボタンをおしたり、車に乗ったり、押ししたりして遊んでいました。風船も好きで、でもうまくつかめなくて試行錯誤していました。あとのほうで、買っていったおもちゃを使いました。うさぎのパペットと、ピアノの絵本と泣いたり動いたりする犬のおもちゃを買っていきました。うさぎのパペットはしまじろうの時と同じようにいないいないばあをしたり、指を出してきたのでそれをパペットでパクッと噛むような動きをすると喜んでいました。ピアノの絵本は鍵盤が細めで二個同時に押ししたりしないか心配でしたが、ちゃんとひけていました。黒鍵が好きで、ずっと黒鍵を触っていました。犬のおもちゃは歩くことができますが、近づいていくと手で払いのけていました。でも興味津々に動く様子を見ていました。遊ぶときの夢中になる集中力はすごいのですが、飽きるのも早く遊びの種類がとにかく多かったです。
- 最初は知らない人が来たことで戸惑っている様子でしたが、おもちゃを出すと興味津々で、自分から進んで包みを開けようとしていました。最初は音の出るおもちゃに興味をもち、中のビーズが触れないことを不思議がっていました。「触れないね、何でだろうね」と声をかけたり、他の音の出るおもちゃを差し出したりすると、一旦そちらに興味を移してから、また元のおもちゃに戻る、という感じでした。ボタンを押すとクマが飛び出すおもちゃは、お母さんがやってみせるとすぐにふたりとも自分でやろうとしはじめました。ボタンを押すという操作が好きなようで、飽きずに何度も挑戦する姿が印象的でした。「くまさんでできたね！」などと声をかけると、ぱちぱちと拍手をして喜んでいました。絵本は、読み聞かせの際に指さしをしたりとコミュニケーションをとろうとする様子が見られました。2 人とも、絵本にも興味津々でしたが、どちらかという絵本をめくる動作を楽しんでいるようでした。室内のすべり台をすべった後に、「やったー！」とハイタッチをすると、その後から自分から手を出してハイタッチしてくれました。

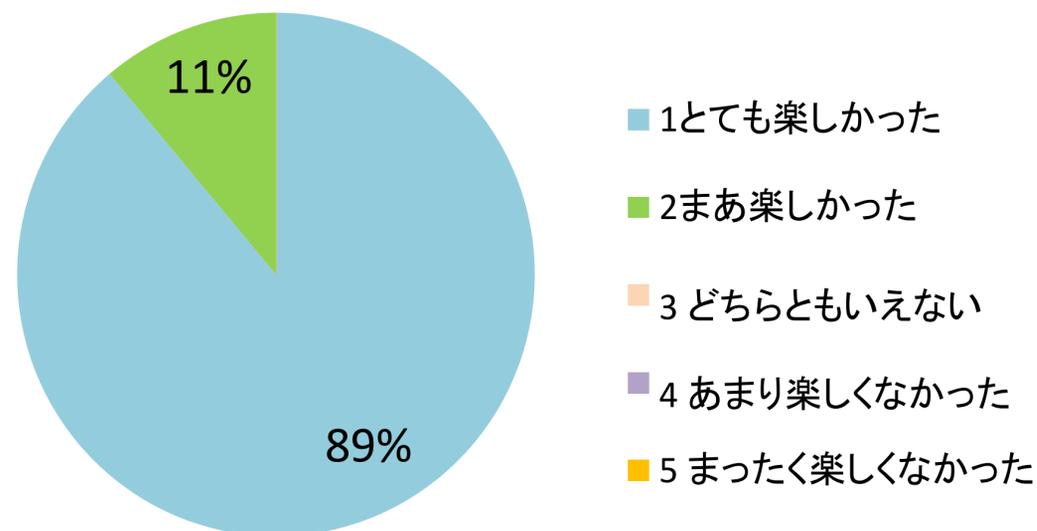
- 音のなる犬のおもちゃや音楽の流れるピアノの絵本などを持参しました。赤ちゃんはしまじろうのビデオを見たり、手押し車に乗ったり、積み木をカチカチしたりして遊んでいました。
- パズルと絵本を持って行きました。持って行ったパズルは動物のパズルで、パズルをはめるのは難しそうでしたが、動物ひとつひとつを「いぬ？」「さる？」と言って遊びました。普段家で使っているおもちゃも出して、電車のおもちゃや、レンジャーのおもちゃなどで遊びました。
- 木製の動物パズルをプレゼントし、動物の名前を言い合いながら遊んだ。「これはここかな？」と言いながらパズルを楽しんでくれた。子どもが好きな戦隊ヒーローのおもちゃや変身グッズなどを見せてくれたり、いっしょに遊んだりした。
- ボタンを押すと音が鳴ったり、動いたりするおもちゃの車を数台持参しました。
1歳半のお子さんと4歳半のお子さんがいらっしやるとのことで、ふたりで遊べてかつ誤飲や事故の可能性が低いもの、ということを念頭におもちゃを選びました。
訪問先では、持参したおもちゃやご自宅にあったおもちゃで遊んだり、お子さんを膝の上に乗せて絵本を読んだりしました。
また、ご飯のお手伝いなどもさせていただきました。
- 事前にお子さんの興味のある玩具の種類をお聞きしたことを参考に車の玩具(五台セット、大きめの車の玩具)を持参しました。持参した玩具や、訪問先のご家庭にある玩具を使い一緒に遊んだり、お母様に教えていただいた最近気に入っているいないないばあやだっこなどのふれあいや、ごはんのお手伝いをさせていただきました。
- お子さんが大変楽しみにされていたので、まずはその子が持ってきてくれるその家のおもちゃを使って遊びました。ミニカーや吹き戻し、絵本、絵カードなどを一緒に見たり走らせたりしました。持参したおもちゃはパズル、リンクグループ、絵本で、パズルを主に使いました。車が好きなようでしたので、車メインなパズルが気に入ったようで何度もばらしてははめ、ばらしてははめていました。私たちは一緒にパズルをしたり、絵本を読んだりして過ごしました。
- 訪問先にある積み木で線路を作って電車で遊んだり、乗り物カードや絵本の読み聞かせをしたり、クッションを使ったジャンプ遊びをしたりした。また、お菓子を一緒に頂いて保護者のかたとお話をした

◆問7:実際に子どもと接してみて、どのようなことを感じましたか？どんなことでも結構ですので、具体的にお聞かせください。

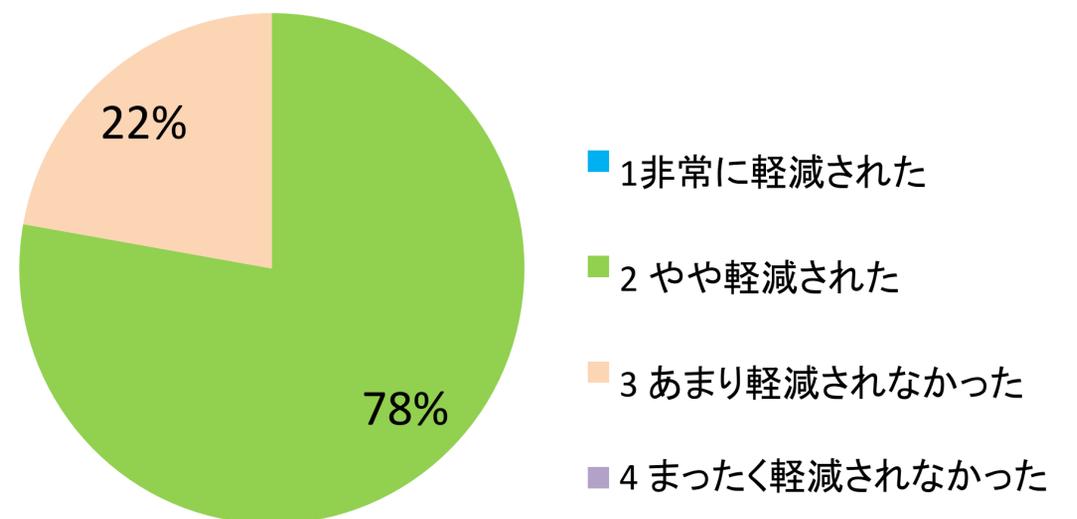
- とにかく子どもが可愛いなと素直に感じた。実習だけでは分からない、保護者と子どもとの関わりやいつもどのように過ごしているのかなどを見ることができた。保護者の方が子どもの成長を楽しみにしていることがよく分かり、子育てしたいなと思えた。
- 子どもの気持ちを察するのが難しいと感じました。また、名前を書いた折り紙をくれたり、帰り際に追いかけてくれる姿を見て、驚いたし少しかわいいなと感じました。
- 子どもが求めているもの、行動を理解することに難しさを感じた。しっかりと自分が欲しいものややって欲しいことがあって大人や周りの人やものに働きかけているんだなと思った。
- 今まで親戚の子どもと接することがあっても、女の子が多かったので、男の子への接し方が最初はよくわからず、戸惑いました。
3人兄弟だったので、1人に接していると、もう1人が放ったらかしになることがあったので、難しいと思いました。
- まだ言葉のないお子さんだったため、言いたいことや求めていることがわかるか不安だったが、遊んでいるうちにすぐわかり、コミュニケーションをとれるようになり、驚くとともに良かった。
- 私自身はすごく楽しめました。持参したおもちゃがお子さんにとってすごく好きなおもちゃだったようですごく嬉しそうにっていて、素直に表情に出るものだなと改めて感じました。また、ご飯を食べされるのは想像以上に大変な仕事だなと思いました。
- やはり1番はすごくかわいかったです。また、私たちと触れ合うときもお母さんの方をチラチラ見たり、お母さんの方へ戻っていたりして、お母さんを安全基地にしているということがよくわかって勉強になりました。
- 子どもは本当にかわいかった。実際におかあさんとこどもがふれあっている姿を間近で見て、接し方や、話しかけ方や、こんな行動をしたらこれをしたいというのをすぐに理解していることなど、すごいと感じた。ずっとにこにこしてくれて、少し恥ずかしそうにしながらも一緒に遊んでくれて嬉しかった。
- とにかくかわいい、思ったよりもお母さんと子どもさんにゆとりを感じました。

- お母様が赤ちゃんとの距離をおいて三人だけになったときがあったのですが、赤ちゃんが大泣きでずっとお母様を探していて、いろいろなおもちゃを使って気を引こうとしたのですが、全く泣き止んでくれませんでした。結局、3人だけであそぶことはできませんでした。簡単にうまくいかないとは思っていましたが、ここまで自分達で何にもできないのだと思うと少し寂しかったです。母親の存在はやはり子どもにとって大きいのだと実感しました。
- 子どもはいろいろなことに興味を持って生活し、生活の中でいろいろなことを学んでいっているのだな、と改めて感じました。できないことができるようになっていく過程を見ることができ、また、どう周囲と関わっているのかを知ることができてとても有意義な体験でした。
- 飽きやすいけれど集中力は計り知れないということや、お母さんに対する愛着が生まれるとなかなか心を開いてくれず苦労しました。
- 保育所や子育て支援ルームで見る子どもたちと、家で過ごす子どもの姿は違って、普段過ごしている場所で安心して遊んでいるんだと感じました。また、遊んでいるかわいい姿だけではなく、おむつを替えるのを嫌がったり、お母さんの言うことを聞かなかったりして、大変なこともあるんだと思いました。
- 可愛かった。プレゼントを喜んで楽しく遊んでくれている様子が嬉しかった。
- 初対面にもかかわらず、胸に飛び込んできてくれたり、膝の上に座ってくれたり、本当に愛おしくて可愛かったです。純粹無垢なお子さんを見ていると、こちらも幸せな気持ちになれましたし、この子がこの笑顔のまま大きくなれますように、という願いのような気持ちも抱きました。
- とにかく可愛いと感じました。また、意外に人の表情を見ていることから、赤ちゃんとの信頼関係を築くには表情を明るく豊かにすることが一番必要になるのではないかと感じました。また、表情の変化がめぐるまじいのだと感じました。誘導してごはんを食べさせると、最後の方には自分でごはんを食べるようになり、成長の早さを感じ、驚きました。
- 子どもはかわいかったです。また、言葉が出ていたのでなんとなくこんなことが言いたいんだろうな、ということや、そう考えていたのか…と思うことがありました。驚きの連続でした。意外と人懐っこい子でみてみて、と寄ってくる姿は愛らしかったです。
- 小さい子どもでも、一人の人間だと改めて実感した。保護者のかたは、少しずつ子どもが話せるようになってきたのが嬉しいとおっしゃっていて、子育てに専念するのは大変でも、成長が見られることがやりがいと頑張れるのだと思った。自分もいつかお母さんになるのだということを具体的にイメージできるようになったし、訪問先の保護者のかたのようにお母さんとして頑張りたいと感じた。

◆問8: 今回の訪問で、子どもと関わるのは楽しかったですか？



◆問9: 今回の訪問により、あなたの子育てに対する不安は軽減されましたか？



◆問 10: 前問でお答えになった内容について、どのような点についてそう思われましたか？どんなことでも結構ですのでお聞かせください。

- 保護者の方が子どもの成長を何よりの楽しみにされていたので、わたしもそのようなお母さんになりたいと感じたから。
- 子どもに対して良いイメージがなかったのですが、今回接してみて、子どもも人それぞれなんだと感じ、自分の子どもは好きになれるかもしれないと思いました。
- 不安については、訪問前から強くは持っていなかったため、あまり軽減されなかったを選択しました。逆に、お母さんと話している中で、買い物が意外と大変だということを知り、今まではそこまで考えもしていなかったところに苦労があるんだなと感じた。
- 私は3人兄弟の長女だったので、親から「お姉ちゃんなんだから。」と言われて我慢することがあり、自分の子どもにも同じように言ってしまいそうで不安でした。お母さんから、子どもは上の子ほど我慢することが多いから、気にかけるようにしていたり、自分が親から言われて嫌だと思ったことは絶対に言わないようにしていると聞きました。私も子どもにそうしてあげたいと思うことが出来て、不安が軽くなりました。
- もとから教育について大学で学んだり子どもと接したりしていたため、お話を聞いたりしたが訪問前とあまり考えは変わっていない。
- 子育てに関して、これが良い、あれが良いと様々なことを考えなければいけません、必要以上に考え込むことはないのだと、お母さんのお話を聞いていて感じたから。
- 育児に関わらせていただいたわけではないので、育児不安が軽減されたわけではなかったです。
- お母さんの話を聞けたり、実際に子どもとふれあう機会が多ければ多いほど、自分の経験に活かせると思った。抱っこの仕方や、オムツの替え方、おやつのあげ方など普段なかなか見れないことを見させていただいたり、話しかけ方やあやし方を身近で見れてよかった。
- 子どもが自分で歩けるようになってお母さんにすこし余裕が出てくると、子どもも落ち着いてくるとのこと。
- 子どもにつきっきりでお世話をしなければならいとわかり、大変だと感じた。しかし、自分の親がそれだけ大変な思いをして自分を育ててくれたのだとわかり、感謝の気持ちがこみ上げてきた。
- 子どもとどうやって接していけばよいのかということ、体験を通して学ぶことができたという点と、実際に保護者の方から育児に関してのお話を聞くことで、育児とは何をして、何が大変で、何が楽しいかということが少し明確になったという点。
- 食べさせているものや、興味を示すものなどを学ぶことができた点。
- 毎日いろんなことができるようになっていく姿をみられるのはとても幸せなことだと感じられたからです。
- 親子の様子から子育ての大変さだけではなく楽しさを感じることができたから。
- 実際にお母様ともたくさんお話をさせていただいて、産後うつや育児不安に対するお話も伺いました。けれど、何よりお母様がお子さんを思っている温もりと、何ものにも変えられない愛情が本当にあたたかくて、親にとって子どもはこれほどまでも大切な存在なんだ、と思えたからです。また、今まで知らなかった行政等の育児サポート(感染症のお子さんを預かってくれる小児科兼保育園等)についても教えていただけたからです。ただ、どうしても社会的には「女性が一人で子育てをする」という考え方がまだ残っているな、ということも感じました。子どもの心のケアももちろん大切ですが、お母さんの心のケアも大切にいてほしいですし、お母さん一人で子育てをするのではなく、社会が一丸となって子どもを育てる、そんな世界であってほしいです。
- 思っていた以上に子供がとっても可愛く、こんなに可愛い子供がいたら毎日が楽しくなるだろうなと思い、育児してみたい、と強く思いました。しかし、想像に及ばなかった育児と仕事、家事の両立は時間的に難しいものだとお話をきいたり、実際見させていただいたことで実感しました。
- お母さんが、最近言葉を話すようになって意志疎通ができるようになって本当に楽しいの。かわいいわよ。と言われておりました。意志疎通が少しでもできるようになれば理解してあげられるかもしれません。しかし、それまでは言葉が交わせない、本当にこうしてほしいのかわからない。ということが、軽く不安として感じました。しかし、本当にかわいいものでこれだけかわいいければ大丈夫とも感じてしまいます。
- 昼間専業主婦で子どもと二人だと、どう過ごすのかなと思っていたが、たとえしゃべれなくても十分コミュニケーションが取れるし、二人で楽しく過ごせるのだと感じた点。

◆問11:今後あなたは、子どもと触れ合う機会を増やしたいと思いますか？また、どんなことをしてみたいですか？

→回答結果: 増やしたい 17名、今の頻度でよい 1名

- 子どもと触れ合う機会を増やしたい。子どもに読み聞かせをしたり一緒に遊んだりなど、直接子どもに関われることをしたい。
- はい。普通に話が出来ればと思います。
- 増やしたいと思う。触れ合い体験などではあまりさせてもらうことのない、普段お母さんや保育士さんがしているオムツ替えやミルクをあげることなどをうまくできるようになりたい。
- 増やしたいと思いました。この事業では、短時間しか子どもと接することができなかつたので、もっと長時間接してみたいです。
- 増やしたい。子どもが好きなことを一緒にやるような活動をしたい。
- お母さんには、また遊びに来てねと仰って頂いたので、機会があればまたお伺いしたいと思いました。今回は、お家の中だけでしたので、お散歩や公園でも遊べたらなと思います。
- 思います。育児に関わることをやりたいです。
- どんどん増やしていきたい。どれだけ映像を見たり、座学で学んでも子育ては実践してみないとわからないことばかりだと思うし、いろんな子どもがいて、それぞれが違う成長の仕方をしているから、いろんな子どもとふれあって実際に成長を感じ取りたい。
- 増やしたいです。でも、自分の子供を持つまでは、いっしょに遊ぶくらいでいいかなと思います。
- 今回は一歳の子どもと触れあったので、今度はもっと幼い子やもっと年上の子とも接してみたいです。一緒に外で遊んでみたいです。
- ぜひ増やしたいと思います。一緒に思いっきり遊んだり、見守ったりする立場でありたいです。遊ぶだけではなく、おむつ替えや食事、だっこなど、子どもとたくさん触れあってみたいと思います。
- 思います。子守体験を繰り返し行ってみたいし、地域の子供ふれあいイベントに積極的に参加したいです
- たくさんの子どもと関わりたいと思います。また、そのお母さんたちから話を聞いたりすることで、自分が母親になる前に不安を取り除けたり、実感が湧いたりすると思います。
- 増やしたい。
- ぜひ増やしたいと思います。育児体験をより本格的にやってみたいです。また、発達障害や精神疾患を抱えている子どもを支える活動や、不登校や引きこもりで学校に行けない子どもと一緒に遊びに行ったり、外の世界に引き出すサポートをする活動などをしていきたいと思っています。
- 子どもと触れあう機会は増やしたいと思います。アルバイト先での子供の扱い方をうまくなりたいたいと思うとともに、子供が可愛いので触れあう機会は増やしたいと思います。公園などでの外遊びも体験してみたいと思いました。
- 私は増やしたいです。親子の話をたくさん聞きたいです。また、継続的に関わりたいとも思いました。成長する姿がみたいです。
- 今ぐらいの頻度でもよい。今まで補助としてしか子どもと関わっていないので、実際自分が、自分の子どもを責任持って育てられるかまだ不安。そこで、短時間でも一人で子どもを預かって関わってみたい。

以上